

授業科目名 (講義題目)	知識マネジメント		開講学期 単位数	後期 2単位
担当教員	永田 晃也		講義コード	科目区分 対象学生
			17176030	
開講予定日	① 10/5 ② 10/12 ③ 10/19 ④ 10/26 ⑤ 11/2 ⑥ 11/9 ⑦ 11/16 ⑧ 11/30 ⑨ 12/7 ⑩ 12/14 ⑪ 12/21 ⑫ 1/11 ⑬ 1/18 ⑭ 1/25 ⑮ 2/1			
履修条件		キーワード	組織的知識創造、SECIモデル、ナレッジ・マネジメント、知識資産	
全体の教育 目標	知識を経営資源として創造、活用、蓄積するための戦略の枠組みを習得する。	個別の学習 目標	各回の講義において取り上げるコンセプトを、具体的な事例に則して理解する。	

授業の概要

本講義は、技術を組織的な知識として捉え直す視点から、その経営資源としての特質を理解するとともに、知識の創造、活用および蓄積に関する経営戦略の枠組みを習得することを目的とする。

資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。

本講義では、上記の理論と経営手法を包括的に取り上げ、両者の関連における問題点に言及する。その際、ナレッジ・マネジメントの表層的な流行現象に追随することなく、その背後にある経営課題の本質と、実践的な解決の指針を探索する。

授業の進め方

講義とケース討論を中心とする。また、課題として任意の組織を取り上げ、その組織におけるナレッジ・マネジメントの導入に関する提案書を作成する。提案書の内容については、レポートとして提出するとともに、第13回～第15回の間にはプレゼンテーションを行うこととする。

教科書および 参考図書

参考図書
 ・野中郁次郎、竹内弘高（梅本勝博訳）『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年
 ・T. H. Davenport and L. Prusak, *Working Knowledge*, Harvard, 1998（梅本勝博訳『ワーキング・ナレッジ』生産性出版、2000年）
 ・杉山公造、永田晃也、下嶋篤、梅本勝博、橋本敬編著『ナレッジサイエンス（改訂増補版）』近代科学社、2008年
 ・野中郁次郎、泉田裕彦、永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年
 ・永田晃也編著『価値創造システムとしての企業』学文社、2003年
 ・S. Fuller, *Knowledge Management Foundations*, Butterworth-Heinemann, 2002（永田晃也他訳『ナレッジマネジメントの思想』新曜社、2009年）
 他

試験・成績評 価の方法等

ディスカッションへの貢献度、ケース分析シートの完成度および課題に関するレポートとプレゼンテーションの評価による。なお、4回以上の欠席は不可とする。